

# 「Choju」だより

株式会社エース・E&L  
代表取締役社長 津田 博通

## 【ホワイトボードをもって会話する親子】

「Choju」は、2016年11月販売開始以来、様々なお客様のご意見や困っている問題を解決すべく対応して参りました。今回は、87歳で耳が遠くなったオヤジさんと、オヤジさんと会話をするためA4サイズのホワイトボードを持ち歩いている娘さんのお話です。

87歳のOさんは、頭がはっきりしていて、体も元気です。ただ、耳が聴こえなくなり、娘さんがホワイトボードに文書を書いて通訳しています。ある高齢者支援センターからの紹介で、娘さんと一緒に来社しました。すぐ「Choju」を試聴してもらいました。TVの音声を聴いてもらうため、「Choju」の音量を小から始めて、中に切り替え、更に音量大の5に設定しました。しかし反応は「音は聴こえるけど、言葉がわからない」と言いました。さらにFM無線を使用してTVの音声を周りの雑音を遮断して、直接聞く方式に切り替えました。しかし、何も変わらず、娘さんのホワイトボードを使用して筆談を始めました。

約、1時間くらい雑談していたら、オヤジさんが急に「イヤホンの音量が大きすぎる」と言い出しました。すぐ音量を下げはじめ、中3くらいに設定したところでOKが出ました。さらに驚いたことは、TVの音声が聴こえ、私たちの言葉も聴こえ始めました。娘さんのホワイトボードが不要になりました。とりあえず、TVの音声を無線で聴こえる「Choju II」タイプを貸し出し、聴こえが良くなるか現在実験中です。なお、他人の話をタブレットに表示するタイプも急遽サンプルを制作し、Oさんの状況確認待ちです。

これほど、聴こえが悪い人とはめったに会いませんが、わずか1時間でこんなにも聴こえが改善した人も初めてです。なぜ、聴こえが改善するかというと「Choju」の特徴であるアナログ回路で自然な音声を脳に届けていることと、単四電池で大きい音量を脳に届けられているためです。高齢者の脳は、次第に衰え、「アイウエオ」が不鮮明になります。このため、聴こえが悪くなるとTVの音量をどんどん上げますが、肝心の聴こえの判断力が衰えているため、音は聴こえても言葉がわかりません。このオヤジさんを世話する、娘さんは本当に大変だと思います。オヤジさんは難聴者特有のせっかちな性格で、聴こえる補聴器を探して手当たり次第購入していたそうです。多分かなりの資産家と思います。

補聴器は70万円や100万円のものを購入している人がいますが、いままで補聴器で聴こえた高齢者と会ったことがありません。補聴器は、デジタル回路で、いかにも聴こえそうですが、音は聴こえても、言葉がわからないという事はほとんどです。言葉が聴こえても人工音なので、だれの声かわかりません。また、どこの方向からの声かもわかりません。補聴器は若者や、軽度難聴者に使用できても、高齢者や中度難聴者以上には使用できません。また、2-5年ごとに買い替えが必要という事も販売会社は説明しません。若い世代は、何度でも買い替え可能ですが、高齢者は何度も買い替えることは不可能です。

タブレットに文字を表示するタイプは、「Choju」の無線技術を応用し、話してが、話した言葉を相手のタブレットに文字で表示するものです。話し手の言葉を、難聴者の前に置いた、タブレットに文字で表示します。これをさらに進化させた「文字会話セット」は相手が外人でも会話が出る優れモノです。言葉の変換率は95%以上をクリアできます。相手の国の文字と音声が届きます。

以上